

### 東北の冬と雪と雪祭り

1月18日、大雪で交通が混乱した日、全国紙の東京本社から青森支局に、「青森は大雪でどうなっているのか、記事を送れ」という指示がありました。記者は「青森では毎日50cmの雪が降っているが、雪がニュースになったことなんかない」と返信しました。

また、友人から「暖かくなったら（気仙沼へ）行きます」と言うメールをもらいました。私は、「寒い冬に来なければ、本当の東北は分からない」と返信しました。そうです。東北を知るためには、冬なのです。

小正月（2月中旬）、東北では各地で、冬祭りが行われます。かまくら（横手市）・なまはげ（男鹿市）・雪灯籠（米沢市）・えんぶり（八戸市）等です。冬祭りは、家内安全・五穀豊穰と共に、子どもの成長を祈願します。

昔の東北では、飢饉や疫病で子供達が亡くなりました。子供は可愛いと共に、生産力（働き手）であり、また、祖先の家を継ぐ存在だったからかもしれません。

東北では、ひな祭りは盛大に行われますが、鯉のぼりは余り見られません。その理由は、

- ① ひな人形は、女の子がおばあさんになっても飾るが、鯉のぼりは、男の子が大きくなれば上げない。
- ② ひな祭りは初春に、鯉のぼりは初夏に行われる。東北人にとっては、春の方が夏よりも、待ちわびている季節である。
- ③ ひな人形や鯉のぼりを孫に贈るお爺さんにとっては、男の子よりも女の子の方が可愛い。等が考えられます。（以上、上田説）

冬祭りが過ぎれば、後1カ月で東北にも、待ちに待った春がやって来ます。

### 真山下り なまはげ雄たけび 男鹿市「柴灯まつり」

「男鹿市の「なまはげ柴灯（せど）まつり」が2月12日夜、同市北浦真山の真山神社を主会場に3日間の日程で始まった。大みそかの夜に男鹿半島一帯で行われる「なまはげ行事」と、真山神社の神事「柴灯祭」を組み合わせた観光行事で53回目。

まつりは午後6時すぎ、湯立ての神事と神楽奉納でスタート。真山地区の若者15人が参道入り口で神職から面を授かり、神の使いであるなまはげに変身して山に入った。境内の神楽殿では、なまはげ行事が再現されたほか、なまはげ太鼓、なまはげ踊りが披露された。

午後8時前には、深い闇に包まれた真山から、なまはげ15匹がたいまつを掲げて登場。「ウォー」と叫びながら境内を歩き回った。観光客は御利益にあやかろうと、地面に落ちたなまはげの装束「ケラ」のわらを拾っていた。

柴灯まつりは、13、14日とも午後6時から行われる。（「秋田魁新報」16年2月13日付け）

【えっ 東京では雪が降ると電車が止まるの！  
気温零下10℃ 雪の鉄路をひた走る「快速しれとこ」(JR 北海道 釧網本線)】



【「親孝行をしないがき（よめ）はいねえか」なまはげ太鼓（秋田県男鹿市）】

